

ART
bee
HIVE

アート ビー ハイヴ

(公財)大田区文化振興協会が2019年秋に創刊した、地域の文化・芸術情報を盛り込んだ季刊情報紙。「BEE HIVE」とは、ハチの巣の意味。公募で集まった区民記者「みつばち隊」と一緒に、アートな情報を集めて皆さまへお届けします！

紙面で紹介しきれなかった
情報をWEB版「+bee!」で
掲載しています。



第24号

発行日
2025年10月1日毎1・4・7・10月初旬
11万部発行
※次号は1月5日発行予定

公式PRキャラクターズビー



読書の秋 アートの季節がやってきた 絵本の秋



①『ゴムあたまポンたろう』長新太(童心社) ②『ねないこだれだ』せなけいこ(福音館書店) ③『ねこのチャッピー』ささめやゆき(小峰書店) ④『よるのさんぽ』たむらしげる(架空社) ⑤『ぼくのベンチにしろいとり』葉祥明(至光社) ⑥『ぴよちゃんのかくれんぼ』いりやまさとし(Gakken) ⑦『おばけのパン屋さん』いちよんご(教育画劇) ⑧『こぶとりさんとワニくんのいどうはんばいの1日』萱間ふみ(CHICORA BOOKS)

大田区といえはかつては文士村、今は絵本作家タウン。

読書の秋、到来です。読書といっても色々ですが、絵本はいかがでしょうか。

今年で没後20年になる日本を代表する絵本作家のひとり長新太は、旧羽田町生まれの蒲田育ちです。独自のナンセンス世界は後の作家たちに多大な影響を与えました。昨年亡くなったせなけいこは1980年まで大田区に住んでいました。シンプルな貼り絵と独特のストーリーで、今も読み継がれる多くの名作を生み出しました。意外に知られていませんが、現在も大田区ゆかりの絵本作家が数多く活躍しています。馬込文士村は有名ですが、大田区は絵本作家タウンでもあるのです。

ささめやゆきさんは蓮沼生まれ。2024年『すなはまのバレリーナ エリアナ・バヴロバのおくりもの』の出版を記念して、武蔵新田の絵本屋TEAL GREEN in Seed Villageにて絵本原画展を開催しました。

たむらしげるさんは蒲田生まれ。初期は雑誌「ガロ」に漫画作品を発表。宮沢賢治や稲垣足穂などの影響を受けながらも、独自の世界を描いています。

大田区在住の作家を紹介します。

葉祥明さんはアンパンマンの作者やなせかきに見出され、「メルヘン作家」として活躍。2021年、田園調布せせらぎ館にて原画展「葉祥明 ～やすらぎの世界展～」を開催しました。

いりやまさとしさんの『ぴよちゃん』シリーズは世界8か国語に翻訳され、累計650万部の大ヒット作です。

いちよんごさんは子育てを機に絵本やかるたを作り始め、「ごきげんようかい」を合言葉にこども向けの妖怪ワークショップを開催しています。

萱間ふみさんはあらゆる技法を使いこなす作家。プキミカワイイ世界観が人気です。

長新太:1927-2005年。代表作『ぼくのくれよん』(1978)、『ゴムあたまポンたろう』(1998)など。

せなけいこ:1931-2024年。代表作『ねないこだれだ』(1969)、『あーんあーん』(1972)など。

ささめやゆき:1943年生まれ。代表作『ガドルフの百合／宮沢賢治 作』(1996)、『ねこのチャッピー』(2011)など。

たむらしげる:1949年生まれ。代表作『よるのさんぽ』(1990)、『よるのおと』(2017)など。

葉祥明:1946年生まれ。代表作『ぼくのベンチにしろいとり』(1973)、『イルカの星』(1996)など。

いりやまさとし:1958年生まれ。代表作『ぴよちゃんのかくれんぼ』(2003)、『みどりのくまとあいくま』(2005)など。

いちよんご:1978年生まれ。代表作『あるある いるいる ようかいえほん』(2019)、『おばけのパン屋さん』(2021)など。

萱間ふみ:1979年生まれ。代表作『こぶとりさんとワニくんのいどうはんばいの1日』(2019)など。

アートな
人

いちよんご

絵
本
作
家



妖怪かるた大会用の巨大かるたを持ちいちよんごさん

撮影協力：お茶がのめる絵本の店 TEAL GREEN in Seed Village ©KAZNIKI

とりあえず妖怪のせいにして、前に進んで行く。

大田区在住の絵本作家・いちよんごさん。子育てをきっかけに絵本やかるたを作り始め、2019年『あるある いる いる ようかいえほん』でデビューしました。作家活動と並行して「ごきげんようかい」を合言葉に、こども向けワークショップを全国各地で開催しています。

「子育てがあまりに大変で、妖怪やお化けで脅かして、言うことを聞かせてやろうという邪な考えで、妖怪の絵本を作りたいと思いました(笑)」と語るいちよんごさん。「何とか作ったのですが、そんなことでこどもは言うことなんて聞きません(笑)。ただ、気が付くと子育てがちょっと楽になりました」。絵本はお子さんのためであり、ご自身のためでもあったようです。「子育てをしていると毎日悩むことがあって、どこか逃げ道が欲しい。とりあえず妖怪のせいにして、前に進んで行きます」。

ワークショップを始めたきっかけをお聞きますと、「上の子が小学生になったタイミングで『サマースクールに出ませんか』と学校からお誘いがありました。絵本作家としてデビューする前です。妖怪かるたでこどもたちと遊んだら

面白そうだなと思い、大きなかるた46枚を取り憑かれたように作りました」。

「活動が続いていると、こどもたちから自分でも作りたいという声が出てきました。それで、みんなの中にあるモヤモヤをかるたにしました。お兄ちゃんがいじめるとか、日頃の不満や納得できないことを妖怪にするんです(笑)。こどもたちがウフツと笑ってやり過ごせるようになったらいいと思います」。

今後のテーマについてお聞きしました。「近年、街の本屋さんがどんどんなくなっているのがとても悲しいです。店員さんも楽しい方が多いんです。本屋さんや本の周り

いちよんご Ichiyongo

1978年奈良県生まれ。大田区在住。子育てを機に妖怪絵本・かるたを作り始める。「ごきげんようかい」を合言葉にこども向けの妖怪ワークショップを開催。代表作『あるある いる いる ようかいえほん』(2019)、『おばけのパンやさん』(2021)、『おばけのカレーパン』(2023) など。
yokai-ehon.com/

みつばち隊：黒湯あつしさん

絵本に登場する妖怪たちの可愛い絵柄にはいちよんごさんの朗らかなお人柄が表れていると感じました。過去の体験や出会いが漏れなく作品制作の糧となっていく経緯を詳しく伺うことができ、とても興味深かったです。

みつばち隊：本門寺の青空さん

デジタル本が主流となった今、紙の本を実際に手にしてページをめくる手触り感を大事にしたいという店主さん。淹れたての珈琲の香りと棚に並ぶ本の匂いを感じながら自分だけの特別な時間に浸れそうな、気持ちの良い場所でした。

商店街 アート

vol.22

大田区内の商店街にあるアトスポットやイベントを紹介します。



グリーンのタイルが目にあざやかでウッド系外観

「in the LIBRARY」

大田区池上 3-32-20 #102
東急池上線「池上駅」東口 徒歩4分
10:00-19:00 (L.O.18:00) 火・水曜
in-the-lib.com/ in_the_lib

世界中のどこにいても、
どんな時代にも飛んで行ける。

「in the LIBRARY」(池上仲通り)

2024年8月、池上仲通りにオープンした「in the LIBRARY」。現役編集者が店主を務めるブックカフェです。

「本は2次元ですが、ページをめくる行為はとも3次元。読書は情報を得るだけのものではありません。一つの体験です。本の世界に入っていける。池上のカフェにいながら、世界中のどこにでも、どんな時代にも飛んで行けます。本は4次元のなのかも知れませんが」と話す店主。

読者の皆さんはリトル・フリー・ライブラリー運動をご存知ですか。「街角に設置された小さな箱に収められた本を、誰でも自由に利用できる活動です。in the LIBRARYは、リトル・フリー・ライブラリーのようなカフェでありたいと考えています。店内に置いてある本は閲覧自由、ご希望があれば

貸し出しもしています」。

そんな想いが広がり、寄贈本が増えているそうです。

「大田区は絵 カウンター内の店主を描かれる方が多いので、美術書もある。お子さま連れの方が意外に多く、絵本も増えてきました。フォトグラファーの方がご自身の写真集を持ってきてくださったりします」。様々な人々と様々なアートとの触れ合いが生まれているようです。「地元の劇団の皆さんと、次回公演の原作者について会話が弾んだりもします。本を通じて、特別な体験ができる場所になりたいですね」。



アートな 場所

いい絵本は原語のままでも、絵を見てストーリーも分かるし楽しめます。

大田区立 久が原図書館 海外絵本コーナー (三枝コレクション)

久原小学校近くの閑静な住宅街の中にある久が原図書館。特色は都内でも珍しい海外の絵本を集めた三枝コレクションです。館長の新中夏世さんと海外絵本コーナー担当の三輪有紀さんにお話を伺いました。

「この図書館ができるのを楽しみにされていた方がいらっしゃいました。久が原にお住まいで大田区の小学校に長年勤務された三枝雛子先生です。残念ながら、開館を目にすることなく逝去されました。ご主人がその遺志を継いで、こどもたちのために使ってほしいと、1983年、お香典200万円を開館準備室に寄付してくださいました。その寄付を基金として、開館までに世界の絵本約900冊を収集し、三枝コレクションはスタートしました」と語る新中さん。現在では約1,900冊を収蔵しています。「当時、海外の絵本はごく一部しか翻訳されておらず、されたとしても時間がかかっていました。海外作家の絵本を読むことがなかなか出来ませんでした。いい絵本は原語のままでも、絵を見てストーリーも分かるし楽しめます。それで、海外の優れた絵本を購入したと聞いています」と三輪さん。

久が原図書館では、英語絵本の読み聞かせ会を行っています。新中(以下敬称略)「今までは年2回程度のペースで不定期開催してきました。『もっと頻繁にやってほしい』とのご要望が多かったので、今年からは2か月に1回定期開催しています*。当館のおはなし会は進行も全て英語です。もちろん、英語が分からなくても楽しめるように工夫しています」。

同じ絵本でも日本語翻訳版とオリジナル版では印象が違うそうです。三輪「やはり原語ならではの魅力、日本語では表現しきれない雰囲気があります。翻訳版を読んでも、英語版も読んでみると新たな楽しみがあると思います。ぜひ味わっていただきたいです」。

*奇数月の第4土曜日の午前11時から開催。10月20日(月)から12月18日(木)まで休館となりますので、次回は2026年1月の第4土曜日の開催となります。



色鮮やかな
『マザー・グース
の世界』

大田区立久が原図書館

● 大田区久が原 2-28-4 ● 9:00-19:00 *1月4日(日)は10:00-19:00

■ 東急池上線「久が原駅」徒歩15分

JR京浜東北線・東急多摩川線・池上線「蒲田駅」西口より 東急バス「田園調布駅」行き「久が原特別出張所前」下車 徒歩3分

JR京浜東北線「大森駅」西口より 東急バス「洗足池」行き「久が原特別出張所前」下車 徒歩3分

※ 第3木曜(祝日の場合は翌日) 年末年始:12月29日(月)~2026年1月3日(土)

特別整理期間・館内工事のための休館:10月20日(月)~12月18日(木) ☎ 03-3753-3343



記念すべき最初のコレクション『複製 世界の絵本館 オズボーン・コレクション』(ほるぷ出版)。特にイギリスの18世紀から19世紀末までの古典的絵本を中心としたすぐれた作品を厳選



ドイツを中心とするヨーロッパの古絵本を複製した『ベルリン・コレクション』(ほるぷ出版)



オックスフォード大学のコレクションを『マザー・グースの世界』(ほるぷ出版)として複製



三枝コレクションを中心とした海外絵本コーナー



担当の三輪さん(左)と館長の新中さん(右)

アート・レガシー in おおた vol.21

大田区内にある文化財に
スポットを当て紹介します。



所蔵:新田神社 画像提供:株式会社半田九清堂

太平記と紙本着色新田大明神縁起絵 (都指定有形文化財【絵画】) ● 新田神社(大田区矢口1-21-23)

室町時代に編纂された『太平記』は、激動する南北朝の時代に生きた人間像を表した軍記物語です。江戸時代には謡曲や平賀源内作の浄瑠璃の題材ともなり、後世の文芸に大きく影響しました。矢口の新田神社は、太平記の一節を元にした絵巻を所蔵しています。

延宝4年(1676)に奉納された上下巻構成の絵巻で、新田大明神として祀られる南北朝の武将・新田義興(1331-58)の物語がやまと絵で描かれています。やまと絵は中国から伝わった唐絵とは異なり、日本独自に発展を遂げてきた技法です。絵巻には、義興の生涯と死後、新田神社の創建までが描かれます。勇猛果敢に活躍した義興でしたが謀略により矢口で非業の死を遂げ、自身を陥れた者を祟ります。その後ひかり物、

つまり怨霊となって人々を悩ませたため、社祠が築かれ祭神として祀られました。これは怨霊の祟りが逆に強い霊力を持つと捉えた御霊信仰に基づきます。

江戸幕府を開いた徳川家康は新田氏の末裔を称しました。本絵巻は家康のひ孫にあたる松平(池田)政種より寄進されました。文化6年(1809)には、当時大人気の狂歌師・大田南畝がこの絵巻を目にしたことが、著書『調布日記』から分かります。

毎年10月10日に行われる例祭では、通常非公開の絵巻の一場面を拝観できます。さわやかな秋晴の下、御神徳を感じてみてはいかがでしょうか。

文:稲葉実夢(大田区教育委員会 文化財担当)

☎ 大田区教育委員会 文化財担当 ☎ 03-3777-1281

注目EVENT

「ART bee HIVE」×大田区立図書館

今号の絵本作家特集にちなみ、区内の図書館とのコラボが実現！展示やイベントのほか、大田区電子書籍貸出サービスから、関連する書籍をご紹介します。

大田区電子書籍
貸出サービス



展 示

1. せなけいこ絵本特集

10月1日(水)～31日(金) 大森南図書館

2. じつはご近所さん!?～大田区ゆかりの絵本作家たち～

10月17日(金)～11月19日(水) 六郷図書館

3. いりやまさとしさんの絵本原画展

『ダイナソーキッズ』

11月1日(土)～11月10日(月)

大森西図書館



『まいごになってさみしいパフ』
いりやまさとし(Gakken)

イベント

1. お話会 10月～12月

第1・3水曜日 10:00-10:30(幼児向け)

第2・4水曜日 15:30-16:00(児童向け)

大田区ゆかりの作家さんの絵本を盛り込んだ読み聞かせ

定員:20名(保護者同伴可)

大森南図書館

2. おりがみで作る絵本のなかまたち

10月25日(土) 15:30-16:00

大田区ゆかりの作家さんの絵本に出てくる仲間たちをおりがみで作成

六郷図書館

なかがわちひろ・文 コロセ・ジュンジ・絵

『おたすけこびととやんちゃなこいぬ』絵本原画展

10月2日(木)～11月2日(日) 11:00-18:00



『おたすけこびととやんちゃなこいぬ』
なかがわちひろ・文/コロセ・ジュンジ・絵/徳間書店

逃げてしまったやんちゃな子犬を、飼い主の男の子の元にかえしてあげるといふ依頼を受けたこびとたち。はたらく車とこびとたちが大活躍する『おたすけこびと』シリーズ最新刊の原画展です。

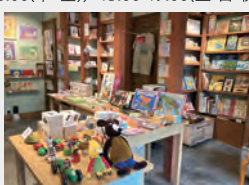
TEAL GREEN in Seed Village(大田区千鳥2-30-1)

無料 休月・火・水曜 teal-green.com/ teal.greensv

チェコニク

11月20日(木)～24日(月・休)

14:00-20:00(木・金) 13:00-19:00(土・日・祝)



毎年行なっている魅惑の国「チェコ」のお菓子や、おもちゃ、雑貨や本を通してチェコをもっと身近に感じてもらうイベントです。

Books+Paperwork タバネル(大田区東雪谷2-30-3)

無料 休月・火・水曜

tabanerubooks.stores.jp/ tabanerubooks

リズビーReport

リズビーが前号で紹介したイベントや場所を訪れます。



『さいとう読書室』で借りた本

昆虫がマイブームのリズビー。蜂や蝶などは「ポリネーター(送粉者)」といって、花粉を媒介する重要な役割があるのだとか。リズビーも区内の芸術拠点を飛び回り、たくさんの情報を媒介するアートなポリネーターを目指します。

リズビー公式 X ARTbeeHIVE

OTAアート・プロジェクト 馬込文士村演劇祭2025

～ものがたりの世界にふれよう～

12月20日(土)・21日(日) 11:00-17:00 ※イベントにより開催時間が異なります



ホール演劇公演
浜田廣介・著
『泣いた赤おに』

本や文学の世界を楽しむ2日間。大田区にゆかりのある作家の作品を演劇公演として上演するほか、ブックフェアやトークイベントを開催。キッチンカーもやってきます！

大田文化の森(大田区中央2-10-1) (公財)大田区文化振興協会

03-3750-1555(10:00-19:00) ※プラザ休館日をのぞく

場所/アクセス/開催時間・営業時間/休館日・定休日/料金/主催/共催/後援/問合せ/電話番号/メール/ホームページ

発見！街角アート

みつばち隊の皆さんが、大田区内の街角で見つけたアートなモノ・バショ・コトを紹介するコーナーです。



秋の夜長、街灯の楽しみ

みつばち隊：山王すばこさん

秋は日暮れが早まり、夜の時間をゆったり楽しめる季節になります。暗くなった帰り道、街灯や店の灯りが温かく感じられほっと心が和みます。帰宅時にふと見上げたジャーマン通りの街灯のデザインが、とてもかわいいことに気づきました。「普段何気なく通っている道や店の街灯にも、それぞれ個性で素敵なデザインがあるのかもしれない」と、アートの視点で街を見つめる新たな発見となりました。



芹沢銈介ゆかりの地、西蒲田で感じる風

みつばち隊：池上のワンコさん

西蒲田には、型染染の人間国宝・芹沢銈介氏の自宅と工房がありました。現在は石碑が建っており、芹沢作品の特徴である、文字を模様のように表現した「風」の文字絵が刻まれていました。このモチーフは、1976年にフランス・パリのグラン・パレで行われた芹沢銈介展のポスターにもなった代表作の一つです。芹沢氏はここでどんな風を感じ、どんな思いで作品をつくっていたのかわかりませんが、想像がふくらみました。



編集後記



みつばち隊：馬込RINさん

区主催の絵本作りに参加した時、親友のこどもを主人公に描きました。出来はさて置き、主人公のあつちゃん、自分が登場する絵本をくい入るのを見て、離そうとしない姿を思い出します。彼女は今、当時の親友と同じ歳ごろに。



みつばち隊：呑川のほとりさん

大森駅の近くにある「本の庭」は、住宅街に佇むブックカフェです。コーヒーと読書を目当てに行くのですが、最近は手作りクッキーにハマっています。ダイエットのつもりで数キロ歩いて行くのに甘い物の誘惑には勝てません。



みつばち隊：洗足の Missyさん

図書館にいと落ち着きます。たくさんの本に囲まれていると静かな森の中にいるような気分になるからです。1人になりたい時、心を落ち着かせたい時、何かに迷った時、森に訪れては、自己と対峙し、また自分を取り戻します。



みつばち隊：羽根付きギョウザさん

幼稚園の図書室で読んだ「いよいよえん」。学級文庫で級友と回し読みした「江戸川乱歩シリーズ」。図書館の児童書コーナーでタイトルを眺め、自分史を紐解くような感覚で当時のことを思い浮かべるのが最近の私の楽しみです。



編集長：MOJOさん

子育ては何かとストレスが多いもの。今回、いちよんごさんを取材して実感したのは、絵本はこどもたちのためだけにあってはならず、親御さんのためにもあるのだということ。こどもが成長するように親も成長していくのです。



みつばち隊：雪谷のさくらさん

絵本は年齢を問わずやさしく語りかけてくれる存在です。図書館で同じ絵本を何度も読んだ記憶は、今も心に残っています。ふとまた読みたくなるのは大人になった今、あの頃のワクワクを思い出したいからかもしれません。



みつばち隊：本門寺の青空さん

高校生の頃の図書館カード。その空欄を借りた本の題名で埋めていくのが楽しかったです。自分の脳の中に新しい「知」が蓄積されるのが見て取れる気がしたからです。借りた本たちは今でも静かに本棚に眠っているのでしょうか？



みつばち隊：黒湯あつしさん

自宅の大掃除をしていた時、段ボール箱に入った20冊の絵本を発見。幼い頃、熱心に読んでいた作品ばかりで、懐かしい記憶が蘇りました。確か『ぐりとぐら』を読んだことがきっかけで、カステラが好物になった気がします。



みつばち隊：山王の坂好きさん

息子が小さな頃、読み聞かせでよく読んだのが長新太先生の『へんてこライオン』。私が『へんてこライオン』とタイトルを読むと、毎回「がー」という可愛い合いの手を入れてくれていました。思い出すと今でも頬が緩みます。

発行：公益財団法人 大田区文化振興協会
〒146-0092 東京都大田区下丸子3-1-3 大田区民プラザ
03-3750-1614(月～金 9:00-17:00) art-bee-hive@ota-bunka.or.jp
ota-bunka.or.jp/ ota_bunka otabunkaart
大田区文化振興協会チャンネル 大田区文化振興協会 編集・デザイン：MOJOWORK

ART bee HIVEの
詳しい情報はこちら



大田区のアートな情報募集中！

情報をお寄せくださった方には抽選で、情報紙
ART bee HIVEの公式PRキャラクターリズビー
& 大田区の公式PRキャラクターはねびよんの
限定コラボグッズをプレゼント！



この情報誌には印刷
インキ工業連合会認
定の植物インキを主
に使用しています。